



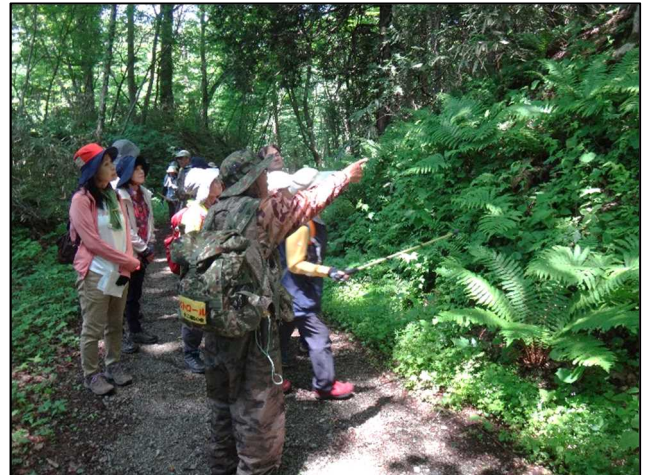
「初夏の十二湖を学んで散策」－第1回森林教室を開催しました

5月27日（土）、深浦町の十二湖において、深浦町との共催により、第1回森林教室を実施しました。今回は15名募集のところ、49名の応募をいただき、嬉しい悲鳴の中、厳正な抽選を行い、15名の参加になりました。

今年度は、これまでにない試みとして、散策前に、深浦町白神十二湖エコ・ミュージアムにおいて、十二湖についてしっかり説明を受けてから歩くこととしました。



エコ・ミュージアムで十二湖について学ぶ



ガイドさんの説明に聴き入る

開会式もエコ・ミュージアムにおいて開催し、センター所長の高木より、「今日は、楽しみながら、十二湖を中心とした白神山地の森林生態系を学んでいってください。」と挨拶があり、その後、キョロロ駐車場に移動。今回も深浦町より2名のガイドを派遣していただき、現地で十二湖の成り立ちや見所をたっぷりと説明していただきながらの散策です。

足下に咲く可憐な花々、まだ新緑と言ってよいブナなどの樹々、そして光の加減で様々な色彩に輝く「青池」をはじめとした湖沼群、ベテランガイドさんたちのお話は興味深く、尽きることがなく、私自身も参加者の皆さんと一緒に「なるほど～」と感心しきり。

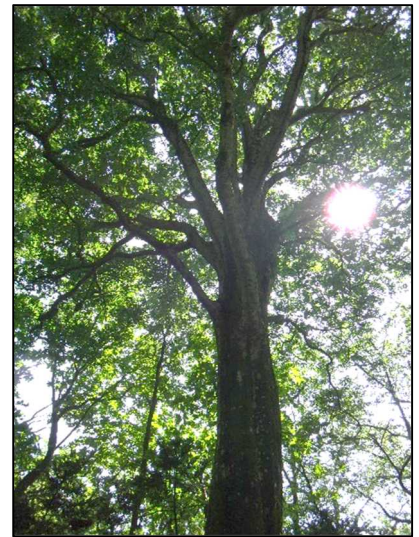
散策ももう終盤に近づいた頃、いよいよハイライトのブナの巨木に至りました。周囲を圧するその雄姿に、参加者の皆さんも私も天を仰ぐようにして見入る。このブナは、今はまだ無名に近く、そこに至る小径もこれといった道標も無いので、まさにガイドさんがあってこそその見学でした。

昨年度は雨に祟られたこの森林教室も、この日は一日、好天に恵まれ、参加者の皆さま

んにも喜んでいただけたようでした。

ただ、反省点を挙げるとしたら、参加者の皆さんからいただいたアンケートで、バスガイド（私）の声が聞こえなかったという意見もいただいたので、今後はバスの中でもご満足いただけるよう頑張りたいと思います（笑）。

私たち津軽白神森林生態系保全センターは秋にも第2回森林教室を予定しております。多くの方の参加を、職員一同、心よりお待ちしております。（赤澤）



天を覆うようなブナの巨木

「白神自然体験 WALK&クリーン作戦」に参加しました

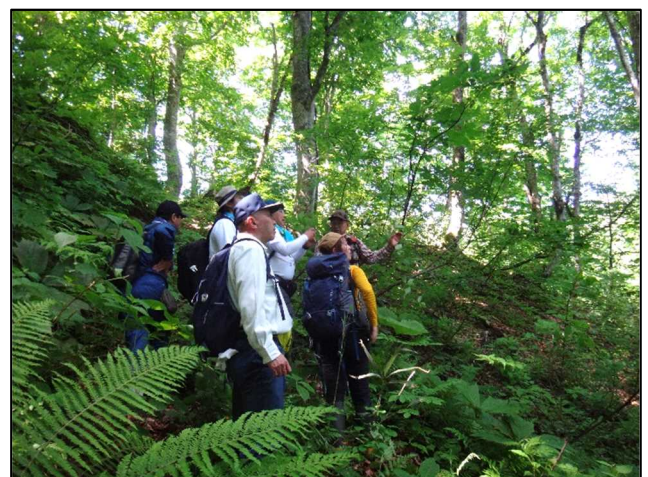
6月4日（日）は、白神案内山の会・白神歩く会が主催し、西目屋村暗門で開催された「白神自然体験 WALK&クリーン作戦」に参加しました。これまで新型コロナウイルス感染症の影響で中止していたのを、3年ぶりに開催とのこと。私たち自身も含めて、いろいろな所でコロナ前の活動が再開されてきていることを実感します。

午前中は、大川からアクアグリーンビレッジ ANMON までの約3キロの区間の車道のゴミ拾いを行いました。さすがに路上には、ゴミはそれほどありませんでしたが、路肩の草むらには空き缶やペットボトルのポイ捨てがかなり見られました。もちろん、このような行為はごく一部の人たちによるものですが、その人たちも白神山地の自然を楽しむためにここに訪れたはず。自分たちの小さな行為が、積み積み積もって自然に及ぼす、その影響を考えて欲しい、そう思いながらゴミを拾いました。

午後からは主催者である白神案内山の会・白神歩く会の方たちの案内で、世界自然遺産地域内に設定された暗門のブナ林散策道を歩きました。会の方のガイドは、ここを何度も歩いている私たちも気づかなかった、様々な視点に目を開かせてくださいました。大木の洞（うろ）にできたミツバチの巣をクマが襲った痕跡、その他様々な植物や動物のことなど、自然に関することはもちろん、炭窯痕とその炭を焼いた人々が歩いた道跡、ブナに刻まれ



車道沿いを丹念にゴミ拾い



ブナ林散策道を歩く参加者

た道標痕など、かつて（多分戦前期）、この山で営まれた人々の暮らしの痕跡の説明をいただき、そこに確かに生きていた人々の喜怒哀楽、今の日本ではもう失われてしまった生活のあり方などに思いが至ったときは、なんともいえない厳粛な感情が去来しました。

今回の体験を受けて、先人から受け継いだ、この貴重な白神山地の森林を、私たちの後の世代にも引き継いでいけるよう、頑張っていきたいと改めて思いました。（赤澤）



林内にたたずむ炭窯痕

令和5年度第1回白神山地世界遺産地域巡視員会議（青森県側）を開催

白神山地世界遺産地域及び周辺部への入山シーズンを迎えるにあたり、白神山地世界自然遺産に携わる連絡会議構成機関や、青森県及び東北森林管理局の委嘱巡視員が一堂に会して、巡視員会議を、6月5日（月）に西目屋村中央公民館大研修室で37名が出席して開催しました。

会議開催にあたり、主催者を代表して東北森林管理局山根計画保全部長より、「ボランティア巡視員の巡視活動も28年目を迎え、世界遺産の保全に大きな役割を担っていることへの感謝と、巡視活動においては、体調管理や熊対策など自身の安全確保を第一にして巡視活動を実施する」ようお話がありました。

その後、新たに巡視員となった加賀谷さんに委嘱状を交付し、「世界遺産を次の子供達に残せるよう頑張る」との抱負があり、参加者全員の拍手をもって歓迎しました。

会議では、白神山地周辺における各機関の事業計画説明、巡視員の活動、入山マナー向上の協力依頼、合同パトロールの実施計画、無人飛行機の取り扱い、安全対策などについて説明があり、今年度の取り組み事項を申し合わせしました。特に、ドローンなど小型無人航空機を遺産地域内で飛ばす場合の取り扱いについては、希少な鳥類を守るため、大川流域や向白神岳周辺などの一部エリアは、特定の時期を除き飛行禁止とした事等について説明がありました。

最後に、津軽森林管理署佐藤署長より、「白神山地が世界遺産に登録されて今年で30周年を迎え、減少傾向だった入山者数の増加が見込まれるので、入山者のマナー向上に努めて安全第一で巡視活動の実施をお願いする」との挨拶があり会議を終了しました。

翌日は、山根計画保全部長ほか4名で、白神ラインの被災状況の把握と、ブナ林散策



新たな巡視員への委嘱状の交付

道を巡視して、入山者の皆さんに「こんにちは」と挨拶を交わしながらパトロールを実施し心地よい汗を流しました。今年度もボランティア巡視員は、違法行為の防止と入山者のマナー向上を促してまいりますので、ご理解、ご協力のうえマナーを守って白神山地の豊かな自然を堪能していただければと思います。(高木)

第1回自然再生活動の参加者募集について

下記のとおり、「第1回自然再生活動」の参加者を募集します。

開催日：令和5年7月15日(土)

開催場所：青森県中津軽郡西目屋村

暗門(鬼川辺国有林内) 他

※道路状況・天候等により内容を変更する場合があります。

募集定員：15名(応募多数の場合は抽選)

【開催最少人数8名に満たない場合は中止とさせていただきます】

参加費：700円(傷害保険料・駐車場料金)

【参加人数により変更となる場合があります。詳細は、参加者へ発送する開催要項でお知らせいたします。】

イベント内容：ブナ林再生活動としての広葉樹の採取から植栽までと森林散策

その他：昼食・雨具を持参。また森林内で作業ができる服装

募集期間：6月26日(月)～7月4日(火)まで

※平日8時30分～17時15分まで(土日除く)

応募方法：電話・メール・封書にてお申し込みください。

※詳細につきましては、ホームページ又はチラシをご確認ください。



仮植の様子

白神山地の魅力や活動を発信する写真展を2箇所で開催

① パネル展「白神山地と赤石溪流の魅力」

期間：6月9日(金)～6月25日(日)まで

時間：9時～18時まで(月・火曜日は休館)

場所：日本海拠点館

(鱒ヶ沢町大字舞戸町字北禿181)

② 津軽白神森林生態系保全センターの活動展

期間：6月11日(日)～7月2日(日)まで

時間：8時30分～17時まで

場所：白神山地ビジターセンター

(西目屋村大字田代字神田61-1)



白神山地ビジターセンターでの様子